TAKE FREE

35

メディカルコート八戸西病院広報誌 / ホスピタリティコート

hospitality Court

特集	地域医療フォーラム	入院〜退院を一括支援「患者サポートセンター」 八戸市立市民病院　院長兼患者サポートセンター所長　水野 豊さん
	社長の健康メッセージ	株式会社 ジェイテック　代表取締役社長　牧　隆 さん
	LIFE WORK HISTORY 人にライフあり、ワークあり、歴史あり ／ チャレンジ改善委員会 もっと開こう、地域へ OPEN HOSPITAL ／ One Day 医療人 しあわせ Chisan Sweets ／ Information ／イベントスケジュール	

地域医療フォーラム

八戸市民病院開設「患者サポートセンター」

八戸市立市民病院は2023年6月、医師、看護師、薬剤師ら専門職が連携し、入院から退院まで患者を支援する総合窓口「患者サポートセンター」を開設。治療に関する説明や入退院手続きなどを1カ所に集約することで、より円滑なサービスを提供できるようになりました。センターを開設した背景や八戸地域の医療連携について、当院の武者晃永病院長が同病院の水野豊院長に伺いました。

八戸市立市民病院
院長兼患者サポートセンター所長
水野　豊さん

1963年仙台市出身。東北大学医学部卒。2002年から八戸市立市民病院に勤務し、外科医として腎移植手術などに取り組んだ。17年副院長兼診療局長に就任。23年4月から現職

メディカルコート八戸西病院
病院長
武者 晃永

地域医療連携で役割分担

武者　八戸地域では市民病院が基幹病院となり、当院を含めた地域の医療機関と役割分担をする地域医療連携が確立されています。

水野　当院は地域の医療機関から紹介された高度急性期疾患、特殊疾患、救急などの患者さんを入院治療しています。西病院とは月に30人程度紹介し合っている状況です。

武者　当院は市民病院での治療後、病状を安定させながら、地域に戻れるようリハビリや生活指導をする役割を担っています。市民病院は、当院の患者さんの急変時に臨機応変に対応してくれるので、非常に助かっています。

水野　西病院はリハビリ施設もスタッフ数も充実しています。当院で急性期治療とリハビリをして状態が安定したら、今度は社会に戻るためのリハビリをしっかりとできる心強い存在だと感じています。

患者さんや職員の負担軽減

武者　患者サポートセンターは昨年6月に開設されました。どのような業務を行っているのでしょうか。

水野　医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカー、精神科ソーシャルワーカー、事務職員らが連携し、患者さんの入院から退院までをサポートする総合窓口です。以前は別々に行っていた治療計画や服薬、入院生活の説明はもちろん、医療費や社会福祉制度の説明などもワンストップで行うことで、患者さんの負担を減らすメリットがあります。また、入院前に患者さんの情報をセンターでまとめ、病棟看護師ら関係者に共有することで、スムーズな入院治療につながります。

武者　患者さんはもちろん、職員の負担軽減にもつながりますね。開設に当たりモデルケースはあったのですか。

水野　2019年、当院の地域医療連携室の看護師から提案され、私を含めた職員数人が患者サポートセンターの先駆けである長野県の佐久医療センターで講習を受けました。それを基に20年から当院の外科患者さんへの入退院支援を試験的に実施し、昨年、ほぼ全ての入院患者さんへの運用を開始しました。センター内にはプライバシーに配慮した個室14室を設置しているので、困り事なども安心して相談することができます。

武者　検査の予約など、診療科ごとに手順が異なる業務もあると思います。画一化するのは大変ではないですか。

水野　おっしゃる通りで、完全に統一できていればいいのですが、まだ到達していないのが実情です。スタートしたばかりなので、一つの科をモデルケースにし、そこから各科に徐々に広げていくような取り組みをしています。

武者　そしてセンターの中には、がん患者さんや家族を支える「がん相談支援センター」もあります。

水野　病状や暮らしへの影響、仕事との両立、治療費のことなど、がんに関するさまざまな不安を解消するため、専門の研修を受けた看護師やソーシャルワーカーが相談に応じています。予約不要、匿名、無料で、当院の患者さんではない方も相談可能ですし、電話での対応もしています。徐々に認知されてきて、最近は月に50件程度の相談を受けています。

武者　がん患者さんは不安が大きいので、気軽に相談できる場所はとても大切ですね。

メリット享受できる形に

武者　サポートセンターの今後の展望を教えてください。

水野　開設がゴールではなく、地域に貢献するために進化させるのが課題です。まだセンターを完全に活用し切れていないとも感じているので、診療科間の手続きの標準化も含め、もっとメリットを享受できる形になればと思います。また、地域医療連携室がセンターの中で一緒に動いています。職種、病棟、外来間のコミュニケーションを深め、患者さんの受け渡しなどをもっと円滑にしたいです。

武者　各医療機関との情報のやり取りも標準化できれば、地域医療連携が非常にスムーズに進むと思います。

水野　セキュリティ面などの課題はありますが、いずれは連携を結ぶ医療機関の間で、クラウドでカルテを共有できるようになれば理想的です。

武者　まずは八戸地域という範囲で、少しずつでも実現するといいですね。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

社長の健康メッセージ

リーダーの人生は健康メソッドの宝庫だ。

vol.35　株式会社ジェイテック

代表取締役社長　**牧　隆**さん

profile: 1960年名古屋市生まれ。名古屋大学大学院工学研究科原子核工学専攻修了。86年三菱金属（現三菱マテリアル）入社。2006年日本原燃出向、11年転籍。21年3月から現職。

ストレス解消には会話が一番

地元の名古屋大学と大学院で原子力工学を学び、卒業後に三菱金属に入社しました。2006年に日本原燃に赴任後は、転籍を経てずっと六ヶ所村で暮らしています。当初は冬の寒さが不安でしたが、時と共に〝住めば都〟となりました。

学生時代は弓道とテニスに親しんでいて、そのうちテニスは今も週に1回はプレーをしてリフレッシュしています。体を動かすのもいいですが、私の一番のストレス解消法は、人と会話をすること。気持ちを言葉にして伝えることで、自分の考えを整理できるからです。また、映画鑑賞も好きで、スクリーンを通して現実逃避をすることもあります。

大病をしたことはありませんが、若い頃から病院や検査が好きではなく、50代半ばまで人間ドックを受けたことはありませんでした。しかし周囲の勧めで受診したところ数値の悪い箇所が見つかり、自分の体を知るためには検査が非常に重要だと痛感。現在は村の医療センターをかかりつけ医にし、2ヶ月に1回、健康状態を確認しています。

お酒を飲む機会は仕事の会合程度で、最近は機能性のノンアルコール飲料を口にすることが多いです。普段の食事は糖質を減らすことを意識し、白米の量を少なめにしたり、玄米や十五穀米に変えたりしています。

働きやすい環境で生き生きと

従業員の健康は、安全な業務のための第一歩です。当社の一日はラジオ体操でスタートしますし、従業員の自己管理意識を高めるため、社内に設置した体組成計や血圧計は自由に利用できます。

福利厚生として、社員同士で感謝の気持ちを伝え合ってコミュニケーションを活発化させ、モチベーションを上げる「インセンティブ・プラス【感謝の木】」や、半年に一度付与されるポイントで、指定のリストから自分に合った物を選択できる「カフェテリアプラン」、残業や夜勤時の食事をサポートする「オフィスおかん」などさまざまな制度を導入しています。それに加えて生き生きと働き続けられる環境づくりにも取り組んでいて、この数年で健康経営優良法人、くるみん、あおもり働き方改革推進企業、あおもりイクボス推進企業の認定を受けました。

従業員のスポーツ活動を支える制度もあります。現在はフットサル、バスケットボール、ソフトボールのクラブ活動に、40人ほどが参加中です。今後は対象のクラブや活動する従業員をもっと増やしたいですね。

また、地元企業に委託して運営している社員食堂は、非常にユニークなメニューを日替わりで提供していて好評です。当社ホームページの「今日の丼」の紹介ページは、人気コンテンツになりました。工場で働く若い従業員が多いゆえにボリューム感あふれるメニューが多いですが、今後は塩分や糖質を抑えることを意識したメニューも取り入れられれば理想的ではないかと思います。

多様な技術を武器に挑戦

当社のモットーは「技術と人をつくる企業」。親会社である日本原燃の原子燃料サイクル施設の運転や点検・保守業務をメインに、設計、エンジニアリング、設備更新工事などを担っています。その一方で、当社の技術・訓練センターには、親会社や当社の従業員、サイクル施設のメンテナンス事業への参入を希望する地元企業の従業員を育成するためのプログラムがあり、座学だけではなく、模擬設備での実技訓練も行っています。

昨年、当社は設立20周年を迎えました。今後もサイクル事業を安全に進めていくのはもちろん、この事業を通じて身に付けた多様な技術力を他の事業にも生かし高めるため、さまざまな分野で挑戦を続けています。それにより得た知識、経験を本業にフィードバックし、さらなる技術力向上に努めていきたいです。

当社の従業員は青森県内出身者が大半を占め、近年では女性の技術者、役職者も増えました。そのような先輩たちの活躍に憧れて入社した女性社員もいます。人材を大切にしながら技術を磨き、この地域をけん引する企業でありたいです。

上）社員同士で、日ごろ直接伝えられない感謝のメッセージを掲出する「感謝の木」。

下）さまざまな種類の総菜を取りそろえ、夜勤や残業時の食事に重宝されている「オフィスおかん」。

data

株式会社ジェイテック

住所：上北郡六ヶ所村大字尾駮
字弥栄平1番地108

設立：2003年6月

六ヶ所再処理工場の機動的な運営と保守業務を担う、日本原燃株式会社の100パーセント出資により設立された企業。六ヶ所原子燃料サイクル施設を支え、そこで培った技術を持って地域社会に貢献している。

人にライフあり、ワークあり、歴史あり。

HISTORY WORK LIFE

当院には、さまざまな経歴や資格をもつ職員が在籍しています。その個性を生かした活躍ぶりやリアルエピソードをご紹介します。

患者さまのあらゆる面に寄り添える理学療法士を目指して

高校卒業後、地元の障がい者支援施設に入職し介護職として2年間働いていました。当時、上司からは「対象者に寄り添った接し方ができるように」と指導されており、私は本人の表情をよく見て話をよく聞き、コミュニケーションをとることを目標に努力していました。介護職としてやりがいをもって働いていましたが、ある時担当していた利用者さんが病気をきっかけに離床できなくなり、どんどん活気を失っていく姿を目の当たりにし、悔しい思いをした経験があります。この時、自分がリハビリのスキルを身につけて関わることができたら、この方がまた元気に生活できたかもしれないと感じ、理学療法士を志しました。現在、当院に入職して3年になりますが上司や先輩方、同期にも助けてもらいながら、患者さん一人ひとりの病状や精神状態に寄り添い、退院後に少しでも充実した生活を送れるよう支援することを心掛けています。対象者が施設でどのように暮らすか、どのようなコミュニケーションを必要としているかを想像できることが、前職を経験したことで得た私の強みだと思っています。退院後も続く患者さんの生活をより良く支援できるような理学療法士になることが私の目標です。

略歴

2021年3月　東北メディカル学院卒業
2021年4月　メディカルコート八戸西病院
リハビリテーション部理学療法科入職

リハビリテーション部
理学療法士
女ケ沢 康暉
Koki Megasawa

※上記取材内容は2023年12月時点のものです。

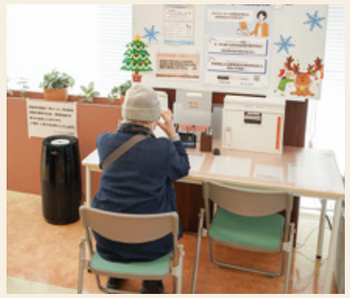
もっと向上できる、ホスピタリティ。

チャレンジ改善委員会

サービス、医療安全、感染対策などをホスピタリティ目線で改善するプロジェクト展開中です。

service

座ってしっかり記入できる記載台を設置



記載台の前壁に各種お知らせを掲示するインフォメーションボードも設置しました。

当院1階の外来待合スペースに、新しく記載台を設置しました。外来初診時などの各種書類への記入は、これまでクリップボードでお願いすることが多く、慣れない方にご不便をおかけしていました。記載台は立って記入するタイプが一般的ですが、当院では、椅子に座って記入できるタイプとしました。そばに、カレンダー、老眼鏡、記載見本のほか、入院患者理容申込みポストも設置しましたので、落ち着いて記入でき、各種手続きの時短にも貢献できます。今後もスムーズな受付対応を目指し、改善に努めてまいります。

service

車いす利用者用のアルコールディスペンサーを設置

車いすに乗ったまま、進行方向のままで、無理なく手指のアルコール消毒ができるようになりました。

当院入り口には、スタンド型とテーブル置き型、2種類の手指消毒用アルコールディスペンサーを設置しています。そのうち、置き型は車いす利用の場合、テーブルの脚がぶつかるなど、身を乗り出す状況がありました。今回設置したのは、車いすに干渉しない台を使用したオートディスペンサーです。車いすが正面でも側面でも利用に負担が少なく、使いやすい仕様で、よりスムーズな入館が実現できています。

今後も、来院されるあらゆる方々にとって利用しやすい環境となるよう、きめ細かな配慮を心がけます。

One Day（ワンデイ）医療人

チーム医療を支える当院のスペシャリストたち。
その専門職種ごとの一日の活躍ぶりをレポートします。

#12

診療放射線技師

Radiological technologist

病気の診断にかかせない放射線を専門に扱うスペシャリストです。医師の指示のもとレントゲン（X線）、CT、MRI、マンモグラフィ検査と画像診断の補助を行っています。基本に沿った撮影を心掛けており、自分の撮影した画像が早期発見につながった時はやりがいを感じます。

八戸西健診プラザ
診療放射線技師：鷹架 優希
中央医療技術専門学校卒
マンモグラフィ撮影技術認定技師
胃がん検診専門認定技師

館内と巡回の両体制で地域の健康を支える八戸西健診プラザ

健診（館内・巡回）当日でも特定保健指導を受けられる体制を整えています。

07:30　出勤・準備

08:00　午前業務スタート

毎朝、マンモグラフィなど機器の精度管理から業務が始まります。乳がん検診などはすべて女性技師で行い、リラックスして検査を受けられるよう心掛けています。

12:00　昼食休憩

同僚たちと休憩室で昼休みを過ごします。持ち寄ったお菓子を食べながら他愛もない話でリフレッシュする大切な時間です。

13:00　午後業務スタート

医師の補助業務として撮影した画像の読影を行います。気になる所見を記載して医師に伝えたり、画像を見やすくするため拡大・反転させ、所見を見逃さないよう努めています。

17:00　業務終了

Note　マンモグラフィ撮影認定技師を取得しています。

マンモグラフィ撮影認定技師は、高度な知識・技術をもつことを客観的に証明できる資格です。認定取得に向けて当施設は支援しています。5年に1度の更新試験があり、合格すると認定更新ができるシステムです。早期発見のため技術の向上に努めています。

OPEN HOSPITAL
オープンホスピタル

評価実習

東北メディカル学院 理学療法学科

地域の医療実習生や職場体験の受入れに
私たちは積極的に取り組んでいます。

具体的な治療方法を現場で学ぶ診療参加型の実習

11月6日～12月9日までの5週間、東北メディカル学院3年の評価実習が当院の回復期リハビリテーション病棟で行われました。

診療参加型実習という形式で、実習生は理学療法士とともにチームの一員としてリハビリテーション治療に参加し、現場での実体験を通して学習しました。訓練室にて患者さまの運動機能の評価や治療を体験したり、病棟にて日常場面での患者さまの動作を病棟スタッフとともに考える機会を持ちました。

実習生からは、「指導担当だけではなく、チームスタッフや患者さまのご家族とも交流する機会を持ったことで、生活環境や家族背景を知ることでより具体的な目標を考えることができた」と感想をいただきました。

これからも患者さま一人ひとりに合わせた回復を考え、チームでリハビリテーションを提供できる療法士の育成に取り組んでいきたいと思います。

関節可動域の計測を行いました。誰が測っても同様の数値になるよう、器具をあてる位置や見方を指導者とともに確認しました。

靴や下肢装具の装着も必要な練習のひとつです。動作の獲得には座っているバランスも大きく影響することを学びました。

当日関わる患者さまの情報収集や、実施した内容の確認を指導者とともに行います。翌日以降の課題も確認していきます。

指導のもと、下肢のストレッチを行いました。痛みの有無など、患者さまの表情を注視しながら行うことを学びました。

しあわせ Chisan Sweets

十和田産のりんごを使って りんごのキャラメリゼ

Caramelized Apples

地域の農家さんが
地域の土と空気と水で育てた食材で
おいしくいただいて健康になる。
しあわせ地産スイーツ。

りんごに含まれる水溶性の食物繊維「ペクチン」は、加熱することで量が増え、粘整腸作用や粘膜を保護する効能がさらにアップします。ペクチンは皮と果肉の間に多く含まれているため、皮つきで調理した方が効率よく摂取することができます。りんごに含まれるビタミンCやポリフェノールは、熱に強く加熱しても失われにくいと言われています。

【作り方】

❶りんごは皮つきのまま輪切りにし、芯をくり抜く。
❷サラダ油をひいたフライパンで❶を両面ソテーする。
❸焼き色がついたらグラニュー糖を加え、焦がさないように焼き上げる。
❹さらに風味付けの無塩バターを加えて加熱し仕上げる。
❺皿に盛り付け、バニラアイス、くるみ、アーモンドを添えて完成。

【材料】2人分

りんご ・・・・・・・・・・・・・・・1個（300g）
くるみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5g
アーモンド ・・・・・・・・・・・・・・・・・5g
バニラアイス ・・・・・・・・・・・・・・・200g
サラダ油 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・20g
グラニュー糖 ・・・・・・・・・・・・・・・10g
無塩バター ・・・・・・・・・・・・・・・・10g

今回のつくったひと

管理栄養士
髙橋 香菜
介護老人保健施設とわだ

公式Instagramで
ご覧いただけます

Information

回復期セラピストマネジャーが3名になりました

昨年12月リハビリスタッフ1名が「回復期セラピストマネジャー」の資格を取得し、当院の有資格者が3名となりました。回復期リハ病棟で、患者さまの在宅復帰に向けた質の高いリハビリテーションと多職種協働によるフロアマネジメントを行います。今後もチーム一丸となり、患者さまそれぞれに合わせた医療の提供に努めてまいります。

ハートフルイルミネーションをSGプラザで点灯中

八戸市長苗代にあるSGプラザで、ハートフルイルミネーションを点灯中です。期間は2月20日(火)まで、点灯時間は16：30～21：30です。病院、健診の関係者や地域の皆さまが温かく明るい気持ちになっていただければとの思いで点灯しております。お近くにいらした際に是非ご覧ください。

訓練用吊り下げレールを設置しました

当院3Fのリハビリ訓練室に、訓練用のレール走行式免荷リフトを設置しました。専用のベルトをつけることで、早期からの立位バランス練習や、歩行練習のほか、安全に転倒リスクを体感することが可能です。この装置や訓練の詳細は、当院リハビリテーション部理学療法科までお気軽にお問い合わせください。

八戸西健診プラザの健診着がリニューアルしました

八戸西健診プラザでは「どなたでも抵抗感なく着用できる」をテーマに健診着をリニューアルしました。性別問わず着用でき、水撥ね等が目立ちにくい紺色で、高齢者でも着脱しやすい作務衣（さむえ）タイプとなっています。肌寒さ対策用のガウンもご用意しております。必要な場合はお気軽にお声がけください。

Event イベントスケジュール

※1Fアートストリートでは、リハビリ患者さまの作品を随時展示しています。

2月6日(火)～29日(木)	終日	当院リハスタッフ 貼り絵展示会	1Fアートストリート	自由観覧
3月3日(日)～29日(金)	終日	訪問リハ利用者 作品展	1Fアートストリート	自由観覧
4月1日(月)～26日(金)	終日	八戸コンタックスクラブ 写真展	1Fアートストリート	自由観覧

・介護予防教室・健康相談のお知らせ

当院専門スタッフ派遣による「介護予防教室・健康相談」を八戸市内の各公民館などで開催しています。日時、場所、内容など詳しくは、当院外来の掲示板でご確認ください。

医療のいろいろなことを相談できる当院公式WEBサイト「診療科トピックス」をご利用ください。

当院では、患者さまの疾病や障害、健康などに関するお悩みについて、さまざまな専門外来の診療科と専門スタッフに、もっと気軽にご相談いただけるきっかけづくりとして、公式WEBサイトに「診療トピックス」を設置しています。スマホやPCでのアクセス、またはお電話でご相談ください。

〈最新トピック〉

・糖尿病内科について

・外科について

●スマホ、PCでご覧の場合

公式WEBサイト
「診療科トピックス」ページ

●お電話の場合(外来のご相談・ご予約)

0120-824-489

受付時間　平日 9:00～12:00/13:30～16:30　土曜 9:00～12:00

Note 編集ノート

マンモグラフィーサンデー通算18回目を終えて。

八戸西健診プラザは、認定NPO法人J. POSHが推進する『ジャパン・マンモグラフィーサンデー』の賛同医療機関として、2012年からイベントを開始。新型コロナウイルス流行期も感染対策を講じた上で継続開催してまいりました。当初は10月第3日曜日のみでしたが、多くのご要望を受け、現在では年2回開催しております。これからも、乳がん検診啓発のための取り組みが地域全体に浸透するよう活動を継続してまいります。

八戸西健診プラザでは、女性検査技師によるマンモグラフィー検査や女性専用の検査フロアなど、女性が乳がん検診を受けやすい環境づくりに取り組んでいます。

公益財団法人シルバーリハビリテーション協会 メディカルコート八戸西病院
〒039-1103 青森県八戸市大字長苗代字中坪77　TEL. 0178-28-4000　FAX. 0178-20-4962　http://sg-silver.jp/

SG GROUP